

色を分つ。

演技 開始の令にて兩組共鉤を目がけて輪を投せしめ、若し落下したる時は其の組の者は任意拾ひ取り再び舊位に復して投ずべし。

暫時斯くの如くして兩組の輪の大部分が鉤に懸かりし時を見て指揮者は「止め」の令を下し、鉤より輪を取り除き其の數を算して多く懸けたる方の組を勝と定む。

注意

一 多人數なる時は輪懸け臺二三箇を置かしむるも差問へなし。

二 其一より其九まで共に鉤の高さは一定する事を得ず。遊戯者の學年、運動場の状況、遊戯者の熟否により適宜定むべし。

然し如何なる場合と雖も遊戯者中身長最大のもの、身長より低くするを嚴禁とす。

三 其一……其九共に小輪に代ふるに普通輪を以てするも餘り差支へなし。

一三三 親子輪廻はし競争

準備 遊戯者を二分して一列横隊に並べ足尖前に横線を畫かせ發足點を定む。而して前方十間位の所に組毎に標旗を立て置き、各一番生に輪二箇宛を與ふ。

演技 開始の令あるや一輪を手にして一輪を廻はしつゝ前方標旗を巡ぐりて一番生は發足線に歸りて二番生に二箇の輪を渡す。

二番生は輪を受くるや直ちに前同様の方法により標旗を巡ぐりて歸り三番生に輪を渡す。

順次如斯して最終生の發足線に歸著する遲速により勝負を決す。

注意

一 輪は同大のもの二箇を與ふるも或は又普通輪と小輪を與ふるも可なり。

二 此の遊戯は一組十人位宛として行はしむべし。

三 此れは唯一例を示したるのみなれば種種變化して行はしむる事を得。例へば

横隊を縦隊として行ふ事を得。

組の兩翼或は後尾を廻らしむる事を得。

或は又波狀に輪を廻はしつゝ走らしむる事を得。

尙ほ又圓陣にて蛇行せしむる事をも得。

一三三 輪置捕虜競争(其一)

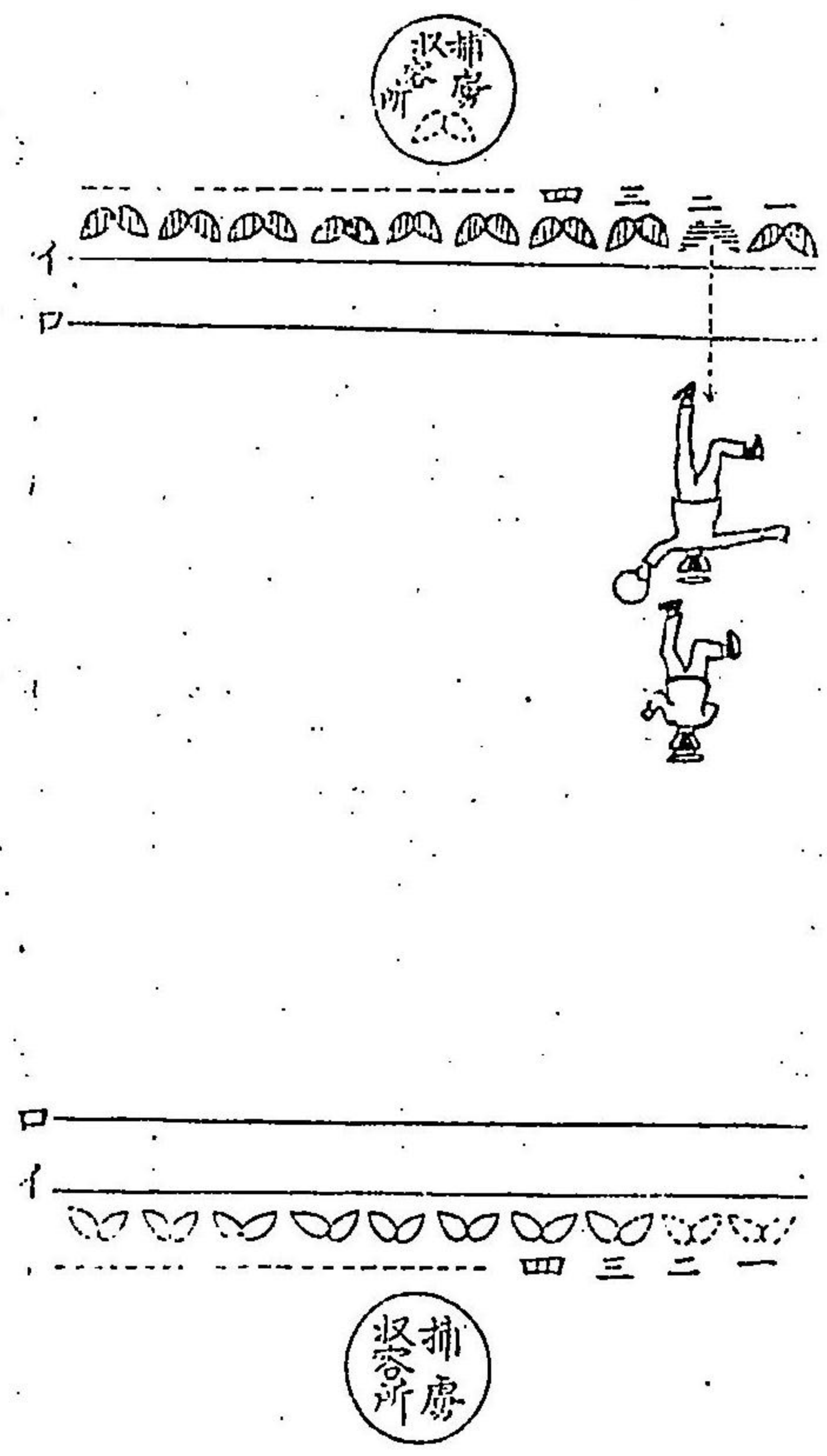
準備 青紅兩軍を十四五間を隔て、對向させ(同番の者が相對す)足尖前に(イ)線を畫きその線より二尺を隔て、(ロ)線を畫き各軍の後方に捕虜收容所を作る。

而して兩軍共に全員に小輪一箇宛を與ふ。

尙ほ兩軍の一番生は手拳により先攻權を決す。(第二十一圖)

演技 紅軍の一番生が先攻權を得たりとすればその一番は小輪を持ちたるまゝ、青軍の一番生の前に行き(イ)(ロ)線内に正しく足を踏み入れて小輪を置くや否や陣地に逃げ歸る同時に青軍の一番生は紅軍の一番生を追ふて背に自分の持てる小輪を觸れん事をつ

第十圖



とむ。

逃手は(イ)線内に駈り込む前に於て追手に輪を觸れられし時は敵軍の捕虜となり敵軍の捕虜收容所に行く。追手即ち青軍の二番は敵を捕虜にし得ざりし時も亦捕虜となし、時も

同じく紅軍の二番の前に行き(イ)(ロ)線内に正しく足を踏み入れ小輪を置き直ちに逃

げ歸る紅軍の二番はそれを追ひ敵の背に輪を觸れん事を務めつゝ青軍の前に行く。斯くの如くして最終生に至り捕虜の數を算してその多少により勝負を決す。

注意

一 青紅兩軍の小輪にその軍の色(青軍は青色、紅軍は紅色)の布片を纏ふて與ふるは可なり。

又帽子によりて軍の色を分つ可なり。

二 逃手が足を不正に踏み入れし時又は輪を投げ置きし時は何回にても正しくする迄追手は一步たりとも追ふ事を要せず。

然し假令逃手が足を不正に踏み入れ又は輪を投げ置きし時と雖も追手が一旦追ひかけて後は「元へ」を要求する事を得ず。

猶又逃手が正しく足を踏み入れ輪も正しく置き逃げ去りし後追手が不注意なりし爲め空しく敵を逸せしめし時は「元へ」を要求する事を得ざるは勿論なり。

三 捕虜收容所は大輪を置かして定むるは至便の方法なり。
四 此の遊戯は輪を用ゐずして行はしむるも亦興味あり。

一三四 輪置捕虜競争(其二)

準備 其一に同じ

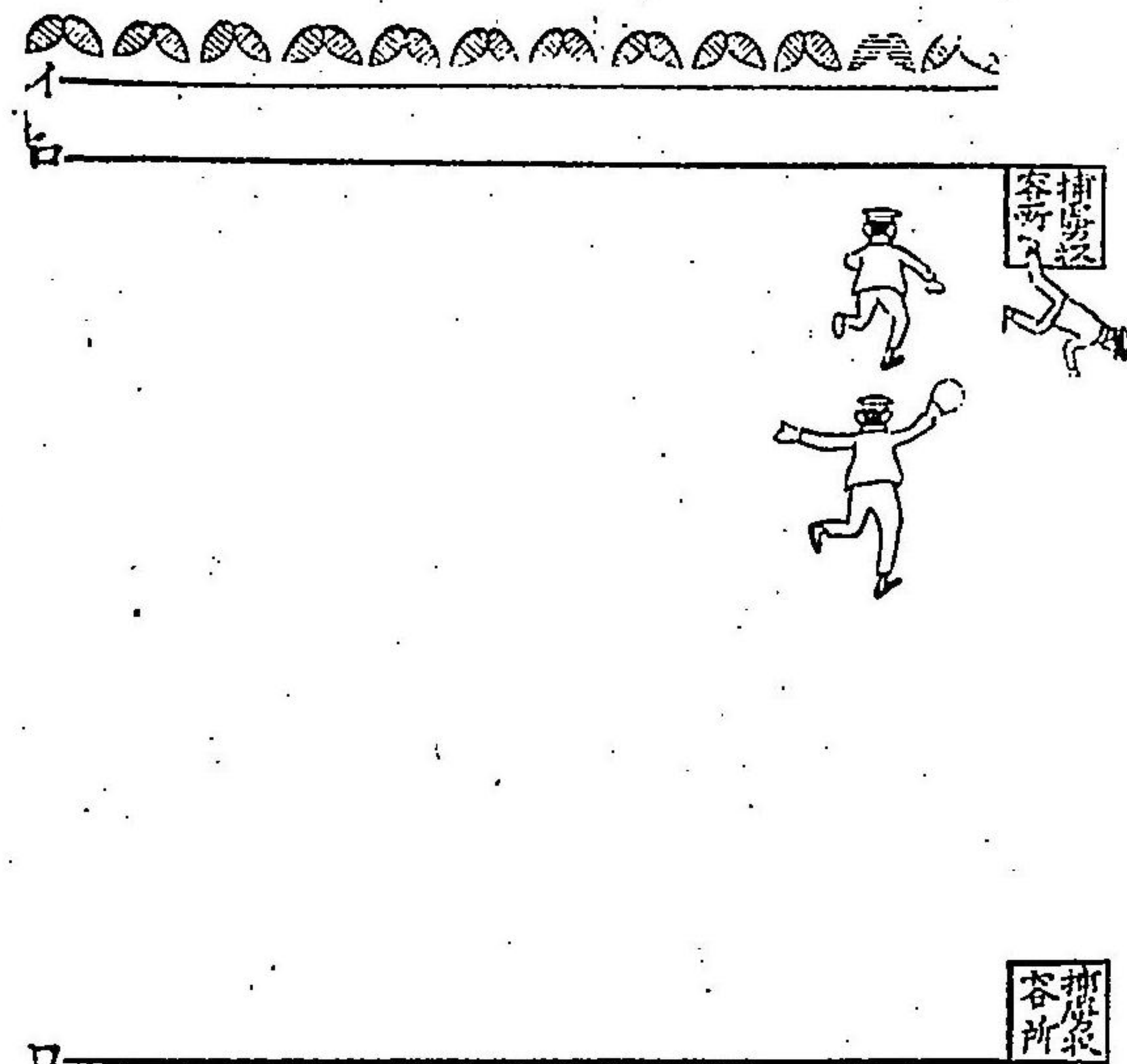
但捕虜收容所を(ロ)線の右端或は左端に作らしむ。(第二十二圖参照)

演技 先攻權を得たる紅軍一番生は敵の一番生の前に行き(イ)(ロ)線内に正しく足を踏み入れ小輪を置き直ちに逃げ歸る。同時に青軍の一番生は逃ぐる紅軍の一番生を追ひ背に輪を觸れん事をつとむ。

逃手は(イ)線内に逃げ込む前に於て追手の爲めに背に輪を觸れられし時は敵車の捕虜となり敵車の捕虜收容所に行き我軍の方に向つて手をのばし援助を求む。

追手(即ち青軍の二番)は逃手を捕虜となしたる時も亦、捕虜となし得ざりし時も同様紅軍二番生の前に行き(イ)(ロ)線内に正しく足を踏み入れ輪を置きて逃げ歸る。

第十二圖



若し途中紅軍二番生の爲に捕虜となりし時は敵の捕虜收容所に行き自軍の方に手を伸ばして援助を求めむ。

紅軍二番生は敵を捕虜となせし時も亦捕虜となし得ざりし時も同様に青軍三番生の前に行き正しく(イ)(ロ)線内に足を踏み入れ輪を置き直ちに敵の爲め捕虜となり敵の收容所にありて援助を求めむ。一番生の許に行き伸ばしたる手に手を觸るゝや共に逃げ歸る即ち手を

自軍のものゝ爲に打たれたる捕虜は援助せられ生還したるものなれば直ちに走りて自軍の陣地(イ)線の後方に逃げ歸る。

青軍の三番生は紅軍の三番生を追ふて逃手が捕虜を助けざる前に於て背に輪を觸れし時は捕虜となし捕虜收容所に送る。

捕虜收容所に入れられし紅軍の三番生は先に捕虜となりし一番生と手を連ね自軍の援助を求めむ。

又若し捕虜を助けたる時は共に二人を追ひ(イ)線内に逃げ込む前に於て捕虜となさん事をつとむ。

捕虜を助けたる者にして捕虜となりし者又は捕虜にして再び、捕虜となりし者は勿論敵の收容所に行く。

順次如斯して最終生に至り現に捕虜となれる者を算して其の多少により勝負を決するか或は又曾て捕虜となりし者の數を算するか又は指揮者の判断により勝負を定むるか

何れの方法をとるも可なり。

注意

- 一 輪色と各軍の色を一致せしむるは最も宜し。
- 帽子の色により軍を分つも可なり。
- 二 捕虜收容所は普通輪或は大輪を置いて定むるも差問へなし。
- 三 其一注意の二を参考すべし。
- 四 逃手にして追手の頑強なるため捕虜となるの憂ある時は假令自軍の捕虜援助を求むると雖も之を助くるも助けざるも勝手たるべし。
- 然しては奨励すべきことに非ず。
- 五 逃手は何れの方向に逃ぐるも差問へなし。

輪遊 戲終

明治四十四年三月六日印刷
明治四十四年三月九日發行

輪遊助法奥附

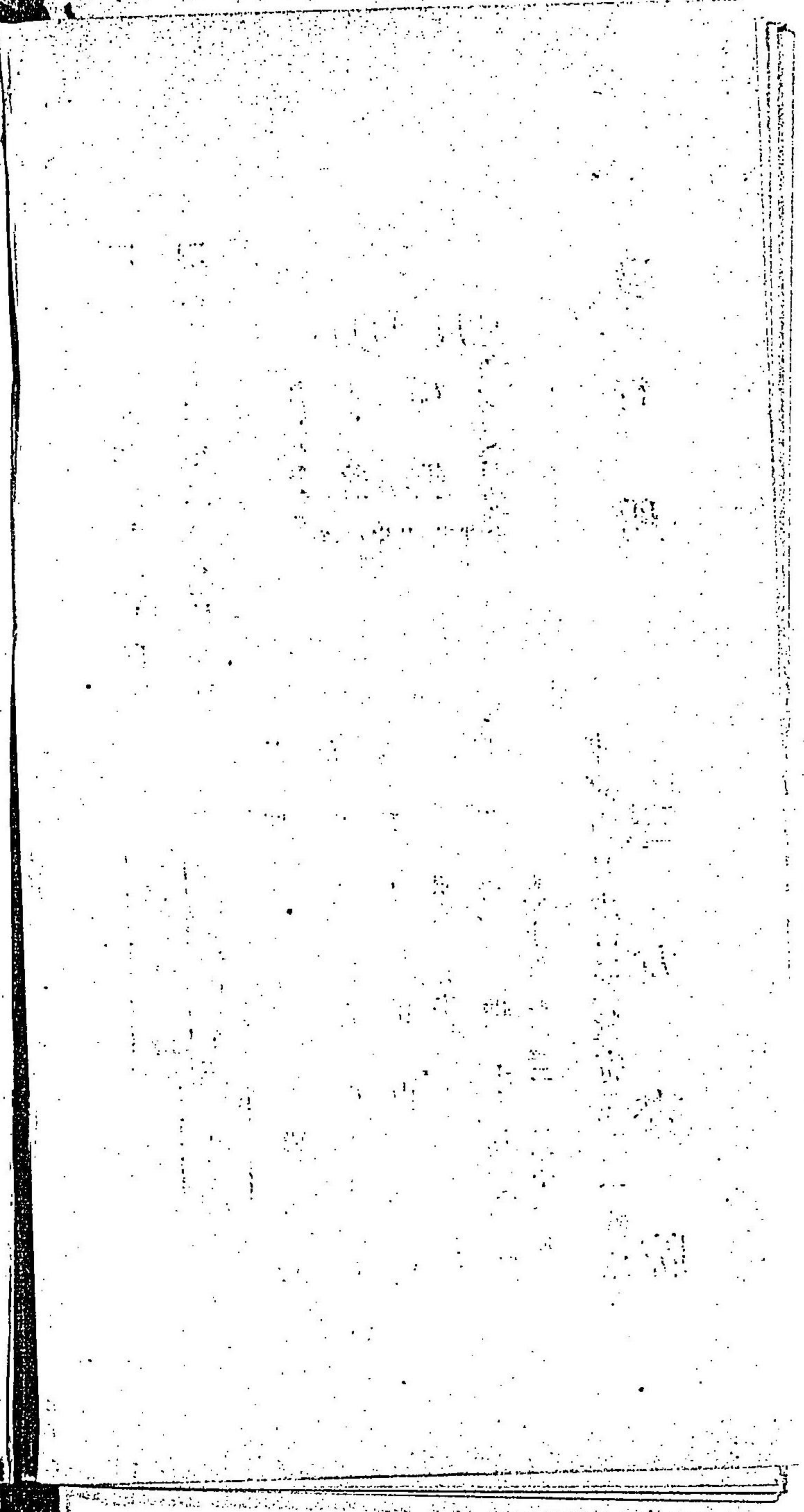
定價金二十五錢

校閱者 石橋藏五郎
 著作者 吉山節夫
 發行者 田山宗堯
 印刷者 畑中爲之助
 東京市日本橋區數寄屋町一番地
 東京市京橋區築地二丁目二十一番地



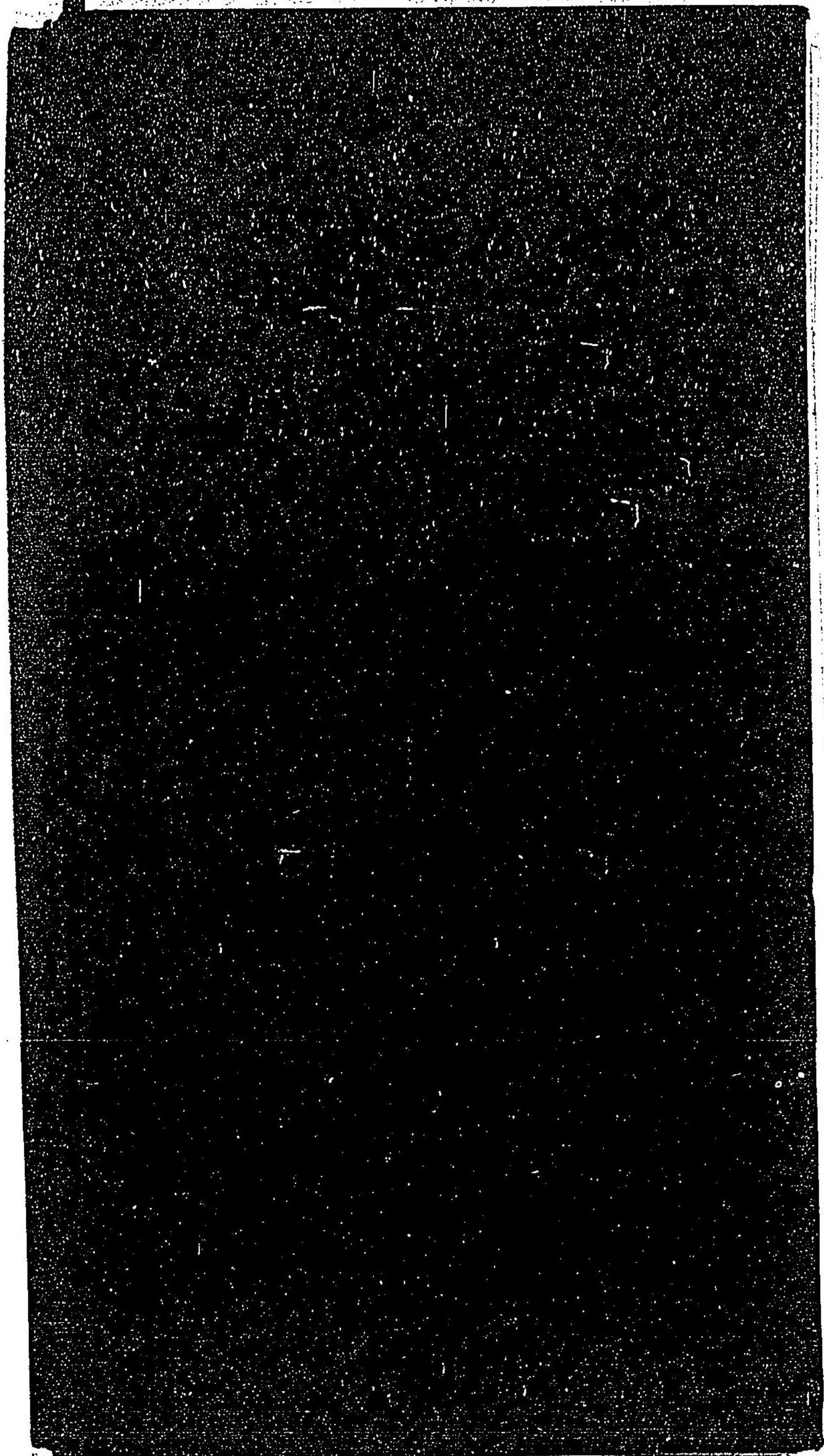
發行所

東京市日本橋區數寄屋町一番地
三友書院



264

762



様の動作を繰り返して行ふ。

第十節 呼吸運動

(一)(二)(三)(四) 上體右捻轉、兩臂上舉、吸氣

上體を右へ充分捻轉し(脚を動かす事なく)同時に兩臂を體前右下方より圓形を畫く如くして上舉し(輪は水平)此の際充分空気を吸入すべし。

(五六七八) 上體正面、臂下垂、呼氣

上體を正面に復し同時に臂を體前下方に下ろし此の際充分呼氣をなす。

(二)(三)(三)(四)(五)(六)(七)(八) 同様左方に行ふ。

(三)(三)(三)(四)(五)(六)(七)(八) 同様右方に行ふ。

(四)(二)(三)(四)(五)(六)(七)(八) 同様左方に行ふ。

音樂適用 輪 運動 法 終

輪 遊 戲